

研究

津久見湾南岸の地域調査 (三)

―主として四浦地区―

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

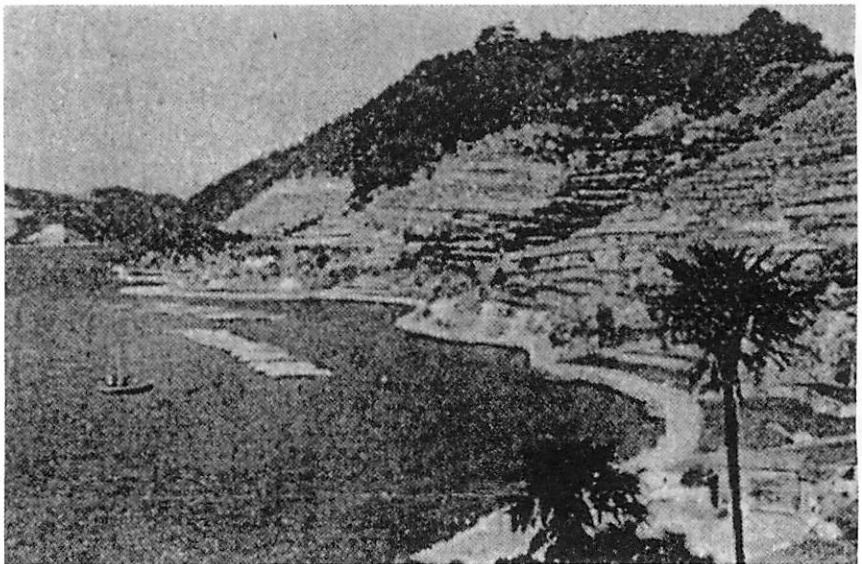
- (一) 総人口の推移
- (二) 人口分布
- (三) 人口構成
- (四) 人口動態

三、産業

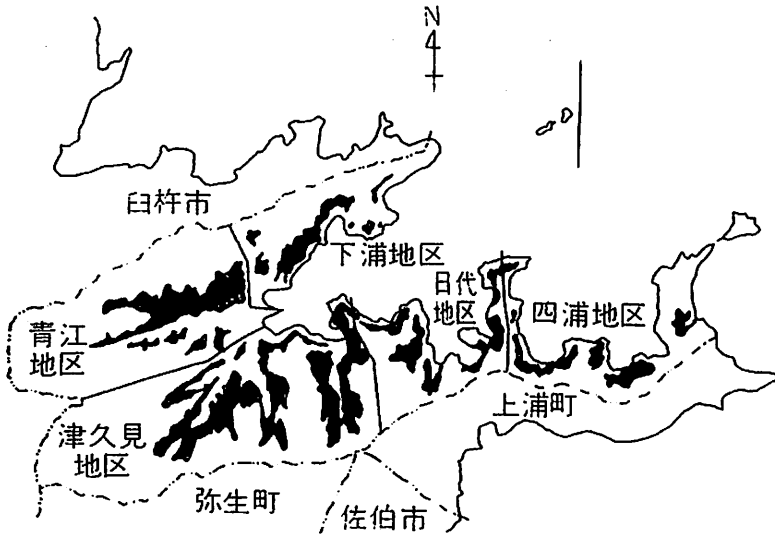
(一) 第一次産業

段畑中心 四浦地区の畑地は二〇〜三〇度の急傾斜地の農業に段畑を形成している。耕地は土壤浸食によつて浅く、十坪以上の耕地は少ない。

これは台風時の豪雨による。



“耕して天にいたる”イモ畑と近代的な養殖イカダ (四浦半島)



第1図 津久見市のみかん分布

地区名	栽培面積	生産量(貫)
津久見	387町	1158540
青江	115町	480000
下浦	62町	150000
日代	20町	49900
四浦	9町	12100
合計	593町	2210540

第一表  
柑橘栽培面積と収穫高(昭和四年)  
(単位:町・貫)  
【大分県統計書】による

農業の中心は 津久見の農業の中心は第1図にみるよ  
みかん栽培 うにみかん栽培である。  
四浦地区も農業はみかん栽培が中心である。  
江戸期から有名であった津久見みかん栽培は第一表に  
みるように、昭和四年(一九二九)においても、四  
浦地区の栽培面積は九町歩も栽培している事がわかる。

耕土は礫質の砂壤土で、甘藷、麦が輪作されている。

釣り人が多  
四浦半島の北半部を占める四浦地区は地  
い四浦半島 区の人々だけでなく、外部から一年を通  
して多い。

今、四浦での親子漁業体験の様子を、新聞報道では次の  
ように伝えている。

津久見市四浦で八月二十七日、親子で漁業体験をする  
「リアス式の町つくみ海風2005ツアー」が開かれた。  
JR大分鉄道事業部が主催。漁業体験を観光につなげ  
るブルーツーリズムを推進する市が協賛した。

大分市内などから二十七人が参加。四浦深良津地区を  
訪れた参加者は、かご網をあげるタコを捕ったり、取り立  
てのアジをさばいて刺身にしたり、漁村の生活の一部を  
体験し楽しんだ。

磯では、県環境教育アドバイザーの斉藤行雄さんのア  
ドバイスで、磯観察教室も開かれた。

参加者は海に浸りながら、小さなエビなどを見つけ楽し  
んだ。

〔大分合同新聞〕平成十七年八月三十一日号)



採取したアワビの大きさ等を船上で調査 (大分合同新聞)

仙水突き磯  
組合の活動

四浦の仙水突き磯組合(関正利代表八人)  
の活躍を紹介したい。

同地区に禁漁区域を設定。約二十年前からアワビの稚貝などを放流し成長を見守っている。

放流は毎年続けており、今年も中間育成した五<sup>サビ</sup>ほどに育った稚貝約二千個を放流したりしている。

放流後の効果などを知るために、五年前から県海洋水産研究センター職員協力で、年二回調査している。

職員三人が海に潜りアワビを採取。種類、大きさ、オスメスの違いなどを記録している。

同組合は、年に数回場所を決めて操業している。

関正利代表は「アワビやサザエが豊富にいた昔の海を戻すために、少しずつでも成果をあげたい。」と話している。

〔大分合同新聞〕平成十六年十月三十日号

養殖に力を入れて 四浦半島で最も養殖に力を入れている深良津地区 いる地区がある。

深良津二世養殖漁業組合（竹尾久信組合長）である。

新聞報道では、その活動状況を次のように紹介している。

昨年度の台風で、大きな被害を受けた津久見市四浦の深良津で、ヒラメ約四万匹、アワビ約二万個の養殖態勢が

整った。オコゼの養殖も新たにスタートさせ、台風被害を乗り越えている。

〔大分合同新聞〕平成十七年六月二十五日号

## （二）第二次産業

四浦地区に 津久見市では石灰石につぐものに珪石が多い珪石 ある。とくに市内では四浦地区に分布している。

明治三十六年（一九〇三）に津久見峠で発見されたが、これがわが国最初のものである。（津久見市誌）

四浦では、鳩浦・久保泊・深良津・落ノ浦等に採石場があり海岸から積み出される。

用途は、溶材用・セメント原料用が各四〇％、耐火レンガの炉材用が二〇％で、製鉄・製鋼・セメント会社などに出荷される。

## （三）第三次産業

バスで商品 J R 津久見駅から四浦地区の中心落ノ浦を届ける までは、バス路線で約二六キロメートル、所要時間は約五十分程度である。

近くの田ノ浦などを含めて、住民は約八十世帯である。

以前は連絡船に依頼して商品を運んでいたが、平成七年(二〇〇五)三月末の航路廃止に伴い輸送手段がなくなった。電話や伝言で買物ができるメリットは大きく地域から再開の要望が続いていた。

運送便は、津久見駅発午後一時半、落ノ浦着同二時十九分の一便。危険物や生もの・割れ物など以外の重さ十キ、長さ二ミ、容積〇、二五立方ダ以内、荷崩れしないよう段ボール等で包む。土・日曜・祝日は取り扱わない。

実際の商品の流れは、商店から荷物を託された組合事務所が、駅前でバスに積み込み、落ノ浦で買い主が受け取る。運送料金(一個百五十円)と手数料(同五十円)は、商店等が立て替える。

現在、商業協同組合の加盟店のうち、輸送基準にあう四十五店が参加を表明している。

市長応接室であった調印式で、吉本幸司市長は「いいかたちで継続できるなら、他の地区へ広げることにも検討したい」、白津交通の佐藤豊明代表専務は「地域の役に立つことができ、バスの利用促進につながればありがたい。」、板井理事長は「商業振興のためにも、模作しながら拡大し

ていきたい」と話した。

〔大分合同新聞〕平成二十年一月三十一日号

イルカと芸が楽 四浦地区の仙水島では、なかなか見しめる仙水島 学することの出来ないイルカの姿を楽しめる。

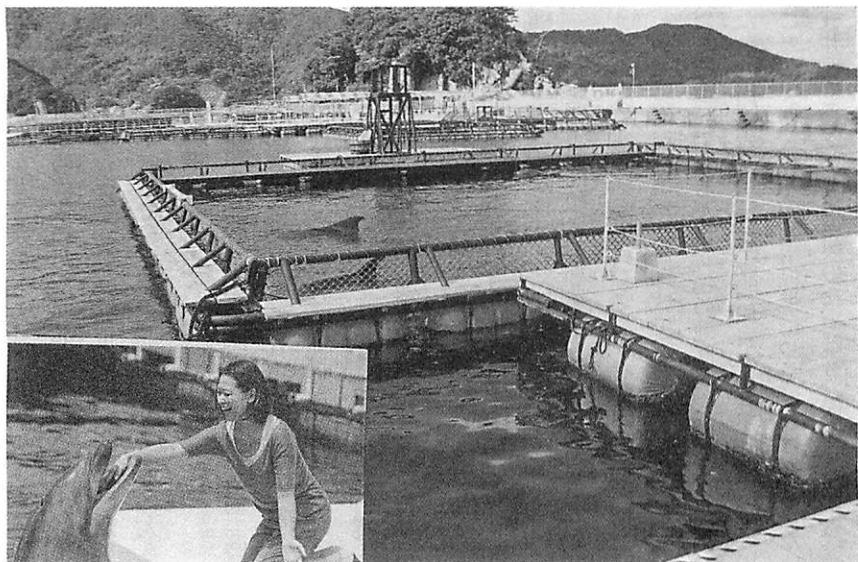
また、イルカを見学するだけでなく、一緒に体に触ったり、握手やキスをしたり、さまざまな「イルカあれあい体験」が楽しめるのも魅力的だ。

イルカの餌やり体験では、ミニバケツに入った魚をデツキからイルカたちに与えて、目の前にやって来るイルカのかわいらしさを感じて独り占め。

隣接する物産館「つくみマルシェ」は、ショッピングと食事が楽しめるスポット。木のぬくもりを感じる。

温かいデザインの店内はマルシェ(フランス語で「市場」)の名の通り、商品棚や椅子、陳列方法にもこだわったオシャレな空間となっている。

清見やサンクイーンなどのミカン類をはじめ、ブリ、宗麟ひらめ、ヒジキ、マグロの加工品など津久見市のおいしい物が勢揃い。



イルカと遊べる仙水島（H23.11.16）

ドレッシングや菓子など人気商品も並ぶ。  
〔大分合同新聞〕平成二十三年四月二日号など参照